

# J-DAVID News



Japan Dialysis Active Vitamin D Research Group



Japan Kidney Week 2011 in Yokohama, お疲れ様でした。日本透析医学会で毎年感心するのが、参加者の熱心さです。医師のみならず看護師、薬剤師、栄養師、臨床工学技士さんなど、自分の役割を誠実に果たそうとする姿に心を打たれます。日本の透析医療が優れているのは、優れた総合力にあるのでは?と感じますが、いかがでしょうか?さて、今回はJ-DAVIDイベント評価委員のご紹介の第2弾として、葭山(よしやま)先生に原稿をお願いしております。

## イベント評価委員からのメッセージ

### 「循環器内科医師を目指して」

大阪市立大学大学院医学研究科 循環器病態内科学  
葭山 稔 先生

1981年に循環器内科を志し30年が経ちました。その頃は、インターベンションという治療もなく、急性心筋梗塞は、不整脈のモニタリングと心不全の治療でした。心不全の治療に関しても、血管拡張療法が広まりつつある時期でした。学生時代は知らなかった断層心エコーを見たときは、本当にびっくりしました。2年間の大学での研修の後、大学の医局の命で2年間民間病院に勤務しました。多くの救急患者を診察しました。特に、循環器が専門の病院では無いので、ありとあらゆる疾患が来しました。敗血症性ショック、急性化膿性胆管炎、ギランバレー症候群、喘息の重責発作などなど、多くの臨床経験が出来ました。自分としては大学院に進みたかったのですが、家庭の経済的理由で行けませんでした。大学院に進んでいる学生をうらやましく思うこともありました。

そんな中、民間病院勤務の2年目には余裕が出てき、我流で臨床研究のようなことをしていました。その分だけ少し余分に処置に時間がかかることもありました。先輩医師に、処置の間、少しかけ時間が欲しいと言っていました。

先輩医師からは、私の行為が滑稽にみえたのでしょうか、冗談で、お前は将来教授になると言われました。5年目に国立循環器病センターのCCUに1年間勤務し、大学に戻りました。大学ではインターベンションの医師になりたいと思っていました。しかし、博士号を取るために始めた基礎研究が、その後の私の方針を決めました。基礎研究の面白さに取りつかれました。

インターベンションは、自分の基本的なテクニックとなると思っていましたが、現在、私はインターベンションのできない医師です。また、研究している友人をうらやましく眺めていた自分が、今も研究を続けている。さらに、若手医師の教育もできる。常に最先端の臨床に接することができます。うれしい限りです。

教授として在籍する今後10年間で、さらに、若手医師と共に進歩したいと思っています。20年後、30年後の医療を担うのは、彼ら若手医師です。その意味でも私の責任は重大です。



## 最近の文献から

### 透析患者における活性型ビタミンDと急性呼吸器感染症

#### Active Vitamin D and Acute Respiratory Infections in Dialysis Patients

Tsujimoto Y, et al. Clin J Am Soc Nephrol 6: 1361-1367, 2011

【ポイント】活性型ビタミンDには免疫調整作用がある。透析患者508例の5年に渡る観察コホート研究で、活性型ビタミンD製剤投与群は非投与群と比較し、入院を要する急性呼吸器感染症リスクが低い(多変量調整後HR 0.47, 95%CI 0.25~0.90)ことが示された。

【詳しくは】<http://cjasn.asnjournals.org/content/6/6/1361.abstract>

## 最新進捗状況

進捗状況を報告いたします。(6月24日現在)

### 症例報告書回収状況報告

	開始時	3ヶ月目	6ヶ月目	12ヶ月目	18ヶ月目	24ヶ月目	30ヶ月目	中止時	脱落基準	SAE	イベント
前月	929	622	486	359	164	104	10	49	45	28	47
今月	<b>939</b>	716	530	393	231	128	10	54	54	41	56



- ★あと**37**症例！至急ご提出ください！！
- ★「観察前中止」の症例につきましても、登録割付をした全症例のデータ解析を目的として「症例報告書（観察開始時）」をご提出いただくことになりました。詳しくは下記「**J-DAVIDデータセンターからのお知らせ**」をご覧ください。

### 内容確認書（クエリー）回収状況報告

	開始時	3ヶ月目	6ヶ月目	12ヶ月目	18ヶ月目	24ヶ月目	コンプライアンス	中止時	脱落基準	SAE	イベント	総数
発行	954	480	294	205	91	36	281	70	6	3	7	2427
回収	856	416	256	159	53	18	252	43	1	2	4	2060
回収率(%)	<b>89.7</b>	86.7	87.1	77.6	58.2	50.0	89.7	61.4	16.7	66.7	57.1	84.9

## J-DAVIDデータセンターからのお知らせ



症例報告書・内容確認書とも、タイムリーにご提出・ご回答いただいております。

先生方、実務ご担当のみなさまに心から感謝申し上げます。

まだまだ長い道のりですが、引き続きご支援ご協力賜りますようお願い申し上げます。

### [再掲] 「観察前中止」の症例のデータ提出について

これまで観察前中止の症例については「中止理由」のみ報告いただいておりますが、スクリーニング時のデータを解析するために「観察開始時」の症例報告書の提出をお願いすることになりました。該当症例について順次内容確認書(クエリー)を発行いたしますので、大変お手数ではございますがご対応くださいますようお願いいたします。

なお、**実務ご担当者さまにも周知くださいますよう併せてお願いいたします。**

### [再掲] 被験者死亡時の報告について

被験者が何らかの事由により死亡された場合は、本試験においては「**イベント報告書**」のみ提出をお願いいたします。(「試験中止時」や「重篤な有害事象」、また通常のフォロー症例報告書の提出は必要ありません。)

編集・発行：J-DAVID研究会事務局  
〒545-8585大阪市阿倍野区旭町1-4-3  
大阪市立大学大学院医学研究科  
代謝内分泌病態内科学 内  
電話 06-6645-3806 FAX 06-6645-3808  
J-DAVID試験データセンター  
電話 06-6645-3443 FAX 06-6646-3588

ホームページもご覧下さい。  
<http://j-david.info/>